

平成29年11月15日

国土交通大臣 石井啓一 様
国土交通省九州地方整備局長 増田博行 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康
ダムによらない治水・利水を考える県議の会 代表 西 聖一
立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会 代表 田上辰也
代表連絡先 熊本市西区島崎 4 丁目 5-13 中島康 電話 090-2505-3880

10月31日の国土地理院の活断層図「阿蘇」の公表と 立野ダム技術委員会に関する公開質問状(その8)

国土交通省は、10月31日の国土地理院の活断層図「阿蘇」の公表に対し、「改めて立野ダム建設に係る技術委員会において技術的な確認・評価を行い、立野ダム建設は十分可能」と、立野ダム工事事務所ホームページで公表しました。しかし、10月31日の国土地理院の公表と同日に「立野ダム建設に係る技術委員会」を開いて技術的な確認・評価を行い、同日に記者発表をするのは、あり得ないことです。

国交省ホームページを見ると、「立野ダム建設に係る技術委員会」委員長名の文書も掲載されていますが、いつ、どのような形で技術的な確認・評価を行った、などということは全く書かれていません。「立野ダム建設に係る技術委員会」は、第三者的な機関ではなく、全くの国交省の内部組織だといわれても過言ではありません。

昨年熊本地震により立野峡谷では阿蘇大橋が崩落し、立野ダム水没予定地の大半が崩れました。多くの住民が、こんな危険な場所にもうダムは造られないと思いました。しかし、昨年夏に国土交通省が設置した「立野ダム建設に係る技術委員会」は、わずか3回の会合で、同省の「立野ダム建設は技術的に可能」との見解をそのまま認めてしまいました。委員には国交省から天下った人もいます。国交省が選んだ委員が、国交省の見解に異議を唱えるわけがありません。国交省は、そのような技術委員会の見解を「錦の御旗」に立野ダム建設を推し進め、住民の公開質問状にも答えず、立野ダム説明会さえ開こうとしません。

国交省は、「住民に知らせない、住民の声を聞かない、住民の疑問に答えない」という姿勢を改めるべきです。以下2点について公開質問します。11月22日までに、文書での回答をお願いします。回答できない場合は、理由を述べてください。

記

- 10月31日の国土地理院の活断層図「阿蘇」の公表を受け、いつ、どのような形で「立野ダム建設に係る技術委員会」は「確認・評価」を行ったのか。技術委員会の開催日時、参加した委員名、「確認・評価」を行った時間と、「確認・評価」を行った内容を明らかにしてください。
- 昨年8月17日開催の第3回「立野ダム建設に係る技術委員会」以降、同委員会を開催した事実はあるのか、明らかにしてください。今後も同委員会を開催する予定はあるのか、明らかにしてください。

以上